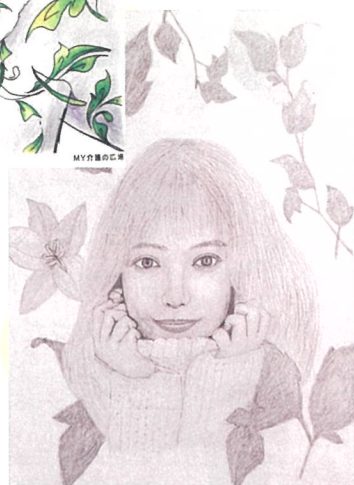


こもれび

第68号

令和4年8月1日発行
茨城県立こころの医療センター広報紙



シリーズ こころの散歩道 vol.26

広報紙で文化祭(患者さんからの提供作品)

お盆

8月といえばお盆ですが、皆さんはどのようにしてお盆を迎えられるでしょうか。お墓を掃除してお花を供え、8月13日は迎え火を焚いてご先祖様の霊をお迎えする。果物や野菜など食べ物をお供えし、ナスやキュウリに割りばしを指して馬の形にして飾り（精霊馬）、16日は送り火を焚いてお送りする。私の子供時代のお盆の風景です。この1年に亡くなった家族がいれば、新盆としてお坊さんにお経を唱えていただき、親戚が集まってにぎやかでした。

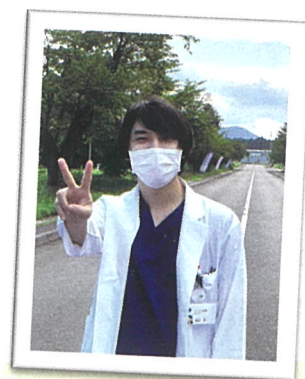
お盆は仏教の経典「仏説盂蘭盆経」がもとになっているといわれます。この盂蘭盆（うらぼん）という言葉はサンスクリット語のウラバーナ（苦しみ）に漢字をあててたものだそうです。盂蘭盆経は苦しみからの救済を説いた仏の教えになります。もう1つ、イラン語のウルヴァン（死者の霊魂）が語源で、死者の霊魂をまつる祭祀だという説もあります（蒲池勢至著「お盆のはなし」）。こっちの方がご先祖様の霊をお迎えするという感覚に近いですね。

民俗学者の柳田国男は、日本で行われているお盆の起源は仏教ではなく、日本に元々あった祖霊信仰に由来するといいます（柳田国男「先祖の話」）。祖霊信仰とは、先祖の霊魂が家を守り、収穫をもたらしてくれるとしてこれを祀り崇拜する信仰です。人が亡くなってある年数（33年など）がたつと、その人の霊は祖霊という集合的な霊体に合一され、家からあまり遠くない山にあって子孫を見守るといいます。

特に霊的なことを信じているわけではありませんが、ご先祖様という言葉は、温かくとても安心できる響きがあります。それはご先祖様の誰ということではなく、ご先祖様全体という何か大きなイメージです。ご先祖様に手を合わせ、頭を垂れるのは、私たちが謙虚になる瞬間かもしれません。人間が神様や仏様を考えるようになったのは、そういう謙虚さを忘れないためではないかと個人的には思います。今、世界中で争いが絶えません。私たちはもう少し謙虚に生きていくべきではないかと思います。

茨城県立こころの医療センター病院長 堀 孝文

心がけ一つで 変わることも



暑い中でも
爽やかな
浅田医師

コロナ禍で思うこと

はじめまして。こころの医療センターで働いている浅田孝一です。

暑いですね。エアコンが苦手な僕でも我慢できずにつけては消してを繰り返す毎日です。この暑さを嘲笑するかのようにコロナが爆発的にやってきて、ついこの前まで外ではマスクを外して歩いていいなんて言われてたのに。でも、こればかりは天災だからしかたない。不謹慎と言われるかもしれませんが、暑さも感染症も誰のせいでもないから、僕はひそかに良かったなと思っています。

誰にでも大切な人がいる

物事に責任を求められることが多い世の中で、何かあったときには誰かが責任をとって謝罪動画を上げたり、それがニュースで取り上げられたりしているのをよく見かけます。もちろん、誰かが責任をとらないと収拾がつかないこともあるでしょう。

僕はそんな誰かが謝罪しているニュースを見たときは「この人の家族は悲しんでいるだろうなあ」と考えてしまいます。自分が何の被害も受けていないからそう言えるのだと言われればそれまでですが、憎んだ相手にも大切な人がいて生きていると考えると、どこか憎めない気持ちにならないでしょうか。誰だって自分の大切な人が責められているのは悲しいし、自分のことのように辛いですよね。

心がけ一つで

僕は自分の身に起きたどうしようもないことも、たとえ相手がどんなに悪いと思っても、上記のように思うようにしています。ま、無理なときもありますけど。

この心がけ一つでだいぶ生きやすいです。もしよろしければ真似してみてくださいね。



部門紹介

第8回 看護局

看護局は、看護局長・副総看護師長・看護教育支援指導官・事務の6名で構成しています。病院職員の6割以上を占める看護師・看護補助者の人材育成・労務管理・様々な相談対応や情報の発信などを行い、「看護のハブ」としての役割を担っています。また、病院経営にも積極的に参加し、様々な提言や業務改善などを行い、チーム医療の要である各部署の看護師がそれぞれの役割を果たし、いきいきと働けるよう支援しています。

看護師は、「医療を提供する最後の実施者」といわれます。それぞれの看護師がその責任を誠実に果たし、患者さんが病院でも地域でも安心して療養・生活ができるように、よりよい看護サービスを追求し続けています。



新型コロナウイルス罹患後精神症状外来を始めました

新型コロナウイルス罹患後の精神症状（倦怠感、抑うつ、不安、ストレス関連症など、いわゆる後遺症）に対応します。対象は、罹患後症状外来実施医療機関やかかりつけ医を受診し、これらの医療機関で対応が難しい精神症状がみられた方になります。

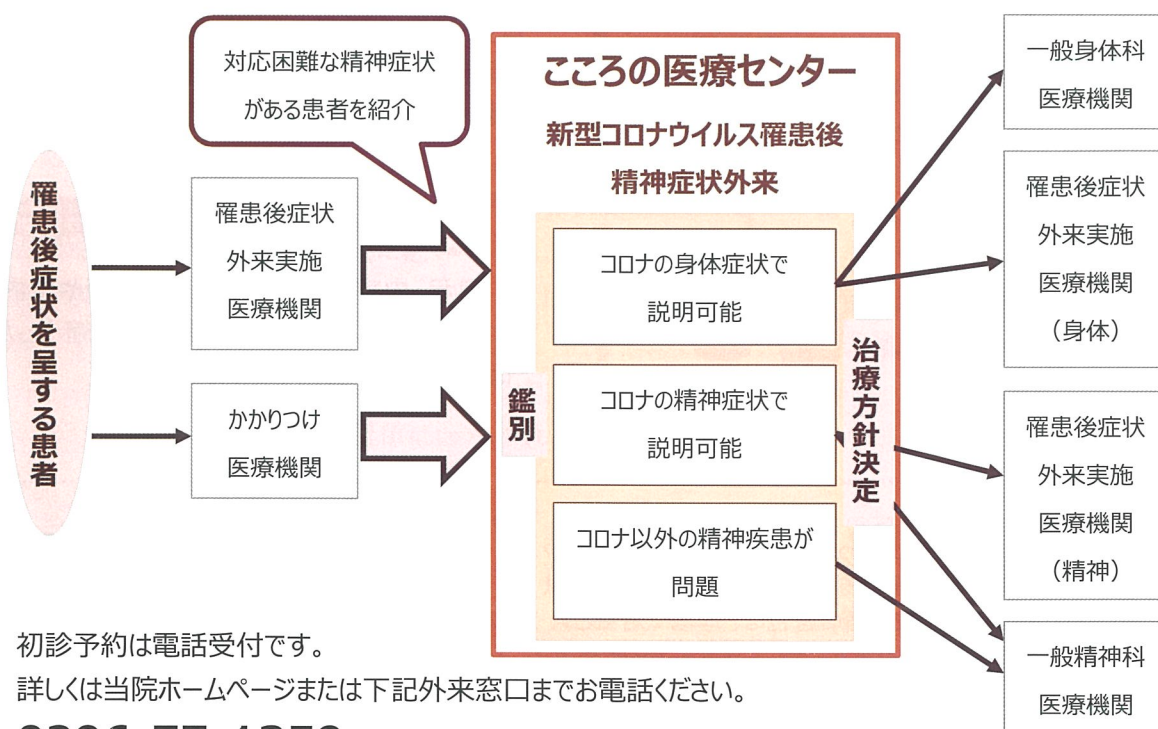
問診と各種検査から、症状が新型コロナ感染によるものか、感染症以外を要因とする精神疾患であるかを分けて判断し、治療方針を決定した上で、罹患後症状治療機関のクリニック、病院等へ逆紹介します。

診療の流れ

1. 紹介

2. 診たて

3. 逆紹介



0296-77-1359

受付時間 平日：10時～16時

医療安全研修レポート

「暴力を予防・防止しよう」～安心を探す～

患者さんやそのご家族が安心かつ安全な医療を受けられるよう、全職員を対象に研修を行い個人レベルや病院全体の組織的な事故防止策を推進しています。

今年度は「禁止物品の持ち込み」「暴力」「与薬」「転倒転落」をテーマに座学と体験に分けて研修を計画しています。

7月は「暴力を予防・防止しよう」というテーマで当センター看護師の大部主任が講師となって座学研修が行われました。講義の中では「精神科医療に関わるすべての人が安心して過ごせる方法を、すべての人が協力していきましょう」と話がありました。



🔍 今月のディケア

色とりどりの山盛りかき氷！鮮やか生き活きめだかすくい！水鉄砲の射的に、ヨーヨー釣り！内容盛りだくさんのディケア大イベント『2022 夏キラ祭り』が7月21日に行われました！

暑さをいかに楽しむか、実行委員を中心に話し合いを重ね、メンバー全員での準備、お店の運営などみんなで祭りを作り上げました。

めだかすくいでは20匹以上捕まえる猛者がいたり、ヨーヨーをまっすぐ前に飛ばせるかと張り合ったり、かき氷を何杯も食べたり・・・とても賑やかで楽しい一日となりました。

コロナ禍でイベント事は減る一方のこのご時世、そのなかで行うことができたお祭りは、ちょっとヒンヤリ、そしてとても温かいものでした。



オープンホスピタルが 開催されました

去る7月15日、当センターに興味がある方や専門研修を検討されている医師、研修医、医学生を対象にオープンホスピタルが開催されました。

当日は、県外から精神科を志望する医師2名が当センターに関心を抱き来院されました。病院概要や研修プログラムの説明、院内ツアーなどが行われ、また当院の医師とも活発な意見交換が行われました。

予告 文化祭開催のお知らせ

日程・内容等は後日ホームページや院内掲示にてお知らせいたします。例年よりは縮小した形とはなりますが、お楽しみにしてください。

<編集後記>

この時期各地では夏祭りが盛んに行われている頃ですが、コロナウイルスの影響で2年、3年と中止や縮小を余儀なくされていることとします。夏の暑さを吹き飛ばす太鼓や笛の音色は、地域に活気と人に元気そして覇気までももたらしてくれます。そして子どもから高齢者までの連帯感を生み出す大切な行事です。少しでも早く取り戻せるよう、みなさん更なる感染予防対策をしましょう。 てっちゃん

茨城県立こころの医療センター広報紙 第68号
発行：こころの医療センター広報委員会
発行者：堀 孝文
発行日：令和4年8月1日
〒309-1717 笠間市旭町654
TEL：0296-77-1151
FAX：0296-77-1739